

事務事業名		大船渡魚市場水揚げ増強対策事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	19 地域活力を担う水産業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	05 水産物の流通加工体制の強化			☐ 単年度のみ		12	01	01	01	04
所属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 — 年度～)						
	部課名	農林水産部 水産課			☐ 期間限定複数年度						
	課長名	千葉英彦			【計画期間】						
	係名	漁政係			年度 ～ 年度						
	担当者	日野 雅貴	電話	27-3111	※全体計画欄の総投入量を記入						
			内線	372							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											
大船渡魚市場への水揚げ増強を図るため、市と大船渡水産振興会(市から補助金を交付)が協力して、廻来船(地元船籍以外の船)及び地元船(サケ・マス、イサダ、イカ、定置網など)の誘致、水揚げ優秀船の表彰(水揚げ数量ランキング上位の船の表彰)、水揚げ増強懇談会(大船渡魚市場への水揚げ数量の増強について、船主や組合等からの意見などを聴取する場)の開催、受入対策事業(水産振興会が実施する氷費用の負担ほか)を行う。 事業費は、補助金、旅費などに支出される。											
全体計画(※期間限定複数年度のみ)											
総投入量 (千円)	事業費 内訳	財源 内訳	国庫支出金								
			都道府県支出金								
			地方債								
			その他								
			一般財源								
			事業費計(A)		0						
			正規職員従事人数								
人件費	延べ業務時間										
	人件費計(B)		0								
	トータルコスト(A)+(B)		0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
大船渡水産振興会への補助金交付事務、水産振興会と連携した地元船及び廻来船の誘致活動、水揚げ優秀船の表彰、受入れ対策事業、地場原料安定確保取組支援事業の実施	ア 廻来船の誘致活動件数 件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ 地元船の誘致活動件数 件
前年度とほぼ同じ内容	ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
・大船渡水産振興会(直接)	名称 単位
・地元船及び廻来船の船主(間接)	カ 大船渡水産振興会会員数 団体
	キ 誘致リストにある船主数 社・人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク
・誘致活動した船主の大船渡魚市場への水揚げ回数が増加する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
	名称 単位
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 水揚げ数量(4/1～3/31)に占める廻来船の割合 %
・水揚げが増える。	シ 水揚げ金額(4/1～3/31)に占める廻来船の割合 %
	ス

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円	4,998	4,974	4,219	6,000	6,000	6,000	
		一般財源	千 円							
	事業費計 (A)		千 円	4,998	4,974	4,219	6,000	6,000	6,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時 間	360	360	360	360	360	360	
		人件費計 (B)	千 円	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	6,438	6,414	5,659	7,440	7,440	7,440
⑤活動指標			ア	件	160	214	204	200	200	200
			イ	件	90	11	12	100	100	100
			ウ							
⑥対象指標			カ	団体	19	18	18	20	20	20
			キ	社・人	250	250	193	300	300	300
			ク							
⑦成果指標			サ	%	55.0	36.1	33.8	51.0	53.0	55.0
			シ	%	48.1	35.4	39.4	45.0	47.0	50.0
			ス							

事務事業ID	0583	事務事業名	大船渡魚市場水揚げ増強対策事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和40年代初め(正確な年度不明)、魚市場への水揚げ増強を図るため、開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

大船渡魚市場は、地元船や地元定置網によるサケと、廻来船によるサンマが水揚げの中心であるが、船主は、価格、問屋、施設との関係で市場を選ぶ傾向が強く、特に岩手県内の宮古、宮城の気仙沼、女川で、サンマの競合が激しい。近年は、近年は閑散期に水揚げを増やすために日曜開場によるカツオの漁船誘致にも取り組み、四国、九州などのカツオ船船主への誘致活動も行っている。なお、誘致活動件数は、船の数が減っていることもあり、年々減少傾向にある。東日本大震災に伴い、競合する産地市場の復興状況により水揚げ受入態勢に差が出ている。水産流通加工施設の復旧状況等を見据えながら、効果的な誘致活動を行うことにより、今後の水揚量確保に大きな影響が出てくるものと思われる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

これまでの誘致活動により、サンマ水揚量県内一や、カツオの水揚げの大幅な増加など、顕著な成果が現れている。水産関係者からは、魚市場への水揚げ増強を図っていくため、今後も事業の継続が望まれている。船主からは、水揚げ時の給水に対する要望などが寄せられており、新魚市場では十分に対応出来る旨説明している。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 水揚げ増強対策事業を実施することで、魚市場への水揚量が増加するとともに、水産流通加工業の振興が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 魚市場への水揚量の大小は、市内の水産加工業の経営に影響が大きく、ひいては、市経済に大きな影響を及ぼすことから、税金を投入してもこの事業を実施しなければならない。船への給油、乗組員の飲食(積載を含む)、包装資材、運送などの波及効果も期待できる。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 水揚げ回数を増やしていくことを目的としており、そのために船主に働きかける事業である。対象意図とも適切であり、拡大、縮小の余地はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 毎年度、前年度の誘致活動の結果を踏まえ、誘致先の見直しを行いながら事業を実施している。新しい魚種の開拓が課題である。また、より効果的な誘致活動をするためには、ライバル魚市場の活動内容や実績についても、情報収集する必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ この事業を廃止、休止した場合、他のライバル魚市場でも実施している事業であるため、魚市場への水揚量の減少は避けられないものと考えられる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 魚市場への水揚げ増強を図るには、漁船誘致以外に方法はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 予算が削減されることで、十分な誘致活動(特に遠方地の各地区で行う水揚げ増強懇談会)ができなくなるので、事業費の削減は難しい。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 毎年度初めに、効率的・効果的な活動方法等について検討している。地元船及び廻来船の誘致活動には、時間を要するため、所要時間を削減するのはむずかしい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 魚市場施設使用料を財源としており、また市経済に大きな影響を及ぼすことから、現状においては、公平、公正な負担になっていると思われる。

事務事業ID	0583	事務事業名	大船渡魚市場水揚増強対策事業
--------	------	-------	----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・前年度の誘致活動の結果を踏まえ、誘致先の見直しを行いながら事業を実施しているが、新たな魚種の開拓や他の魚市場の誘致活動の状況についての情報収集も必要である。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・誘致先の見直し、誘致活動箇所を増加 ・新たな水揚魚種の開拓 ・ライバル魚市場の活動内容や実績についての情報収集 ・東日本大震災で漁船の受け入れが困難な状況もあるが、この様な時こそ誘致活動が重要である。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	水産課	千葉 英彦

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 市場水揚げの向上には、買取価格だけではなく人的なつながりが重要であり、さらに事業を拡充させていく必要がある。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 新魚市場が完成し、これまでの誘致先を大切にし、新たな誘致先を開拓する必要がある。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
